

◆◇「犯罪からの子どもの安全」メールマガジン vol.27 ◇◆  
2010年11月30日号

このメールマガジンでは、(独)科学技術振興機構 社会技術研究開発センター(以下、RISTEX)「犯罪からの子どもの安全」研究開発領域が領域の活動報告をはじめ、各種イベント案内、国の取組み、問題に取り組む人々の紹介など、犯罪からの子どもの安全に関する様々な情報を毎月一回程度配信しております。

次回から配信を希望されない方、登録情報を変更したい方は、末尾をご参照下さい。

メルマガについてご意見やご感想、こんな情報が知りたい、こんな取り組みを行っているなど、皆様からの情報をお待ちしています！

◆◆ INDEX ◆◆

1. 研究開発領域・プロジェクトの活動紹介
2. 犯罪からの子どもの安全レポート
  - ・少年問題シンポジウム「次代を担う少年の育成のために～子どもに規範意識を身につけさせよう～」参加レポート
3. 「犯罪からの子どもの安全」WEBサイト更新情報
  - ・国の取組み情報
  - ・イベント情報
  - ・見どころピックアップ！
4. 「犯罪からの子どもの安全」WEBサイトアクセスランキング  
今月一番注目されたコンテンツとは・・・
5. 今月のキーワード  
14%

皆さんこんにちは！

朝晩の冷え込みが厳しくなりつつあり、早いものでカレンダーも残すところあと1枚、今年もあと一カ月となりました。年々月日の流れが速く感じられます。

19世紀のフランスの哲学者ポール・ジャネが発案した法則によると、生涯のある時期における心理的な時間の長さは、これまで生きてきた年数の逆数に比例するのだとか。10歳の子どもにとって1年間はこれまでの人生の10分の1で、50歳の人にとっては50分の1、つまり、同じ1年でも、10歳の子どもが感じる心理的な長さは、50歳の人5倍ということです。

「教育するとは、子どもをそれ以前の状態から脱皮させることだ」こちらはフランスの哲学者ポール・フルキエの言葉です。先日参加した外部イベント「第17回少年問題シンポジウム」の基調講演で紹介されました。

フルキエの著書は1970年代のフランスのリセの代表的な哲学教科書であるとのこと。その時から時代は凄まじい勢いで変化を遂げているにも関わらず、彼の発した言葉が現在でも説得力を持つのは、子どもたちへの想いは、いつの時代も変わらないということなのでしょう。シンポジウムの様子は、今号のレポートに掲載していますので、ぜひご覧ください。

それでは、最後までお楽しみください。

---

## 1. 研究開発領域・プロジェクトの活動紹介

---

今月の領域およびプロジェクトの動きをご紹介します。まずはプロジェクトから。

「子どもの被害の測定と防犯活動の実証的基盤の確立」プロジェクトでは、11月3日にグループリーダーが集まる会議が実施され領域担当も参加してきました。しっかりとした根拠を積み重ねながら着実に歩を進めてきた本プロジェクトでは、各グループでの成果を集約し、社会実装へ向け更なる検討を進めています。

12月3日には、つくば市にて、これまで協力をして下さった地域の方々へのお礼の気持ちも込め、成果報告会が実施されます。ご興味のある方は、以下より是非お申込み下さい。※申し込みは12月1日締切です。お急ぎください！

「子どもの防犯研究・つくば報告会」

プログラム：[http://www.anzen-kodomo.jp/program/research/pdf/y\\_harada10.pdf](http://www.anzen-kodomo.jp/program/research/pdf/y_harada10.pdf)

申込書：[http://www.anzen-kodomo.jp/program/research/pdf/y\\_harada11.pdf](http://www.anzen-kodomo.jp/program/research/pdf/y_harada11.pdf)

「演劇ワークショップをコアとした地域防犯ネットワークの構築」プロジェクトでは、11月11日に各グループの主要メンバーによるミーティングが実施されました。本プロジェクトは“演劇”というユニークな手法に注目が集まりがちですが、それだけではありません。子ども達を犯罪から守るために、どんな内容としていくと良いのかについて議論、検証しながら進めています。

今回、プロジェクトの皆さんの議論の場に初めて参加しましたが、バックグラウンドの異なるさまざまな個性・経験を持つ人々が参加しています。それぞれの力が発揮され作り上げられる成果が楽しみです。

11月16日には「被害と加害を防ぐ家庭と少年のサポート・システムの構築」プロジェクトの第2回セミナーが実施され、領域担当も参加してきました。今回は会場に入りきれないほどの参加者が集まり、関心の高さが伺えました。講演では、これまでのプロジェクトでの取り組みや、海外における先進的な取り組みの調査結果について、事例を交えた分かりやすい説明が行われました。

今後は、相談窓口により多くの方に来て頂けるよう、月に1回の公開相談会も実施予定とのこと。サポート・システムの構築に向け、困難にぶつかりながらも常に工夫を重ね、丁寧な取り組みが印象的です。

「犯罪からの子どもの安全を目指したe-learningシステムの開発」プロジェクトでは、11月26日に本プロジェクトで作成したe-learning教材を用い、まずは大阪教育大学附属池田小学校での実証実験が実施され、その後、外部有識者から忌憚のない貴重なご意見を頂きました。実証実験中には、子ども達からも忌憚のない意見が、ちらほら聞こえてきました。

今後、一般の小学校への展開を控え、今回のこれらの意見をどのように受け  
ページ(2)

止め、活かしていくことができるのか、プロジェクトの正念場です。

続いて、領域の活動ですが、先述したような様々な機会にマネジメントグループが各プロジェクトを訪問して直接意見を交わしている他、今年度後半に予定されている数々のイベントに向けて企画も大詰めです。今月上旬に実施した領域会議でも議論を繰り返し、本格的に準備を進めています。各イベントの情報は順次、皆様にいち早くお知らせさせていただきますので、楽しみに。

---

## 2. 犯罪からの子どもの安全レポート

---

- 少年問題シンポジウム (<http://www.syaanken.or.jp/index2.html>)  
「次代を担う少年の育成のために～子どもに規範意識を身につけさせよう～」  
(主催：(社)全国少年警察ボランティア協会／(財)社会安全研究財団)  
参加レポート  
2010年11月17日 ニッショーホール(東京都港区)

標題のシンポジウムで当領域の「子どもを犯罪から守るための多機関連携モデルの提唱」プロジェクトでグループリーダーを務める、石堂常世 早稲田大学教授が登壇されるということで参加してきました。

シンポジウムの開催趣旨に、少年非行の原因・背景の一つに家庭や学校、地域における子ども自身の規範意識の低下が挙げられ、子どもたちが規範意識を身につけるためには、家庭でのしつけが大切ですが、家庭での教育力の不足や保護者自身の規範意識の低下が問題となっているとの記載があります。

今回は、このような現状を踏まえ、子どもたちを取り巻く環境に対し、大人社会がいかなる役割を果たしていくのを考えることを目的に開催され、参加者は、警察や学校関係者、地域のボランティアの方々などが多い模様でした。

基調講演では、先述の石堂氏が登壇。子どもの規範意識低下の背景には、大人や社会の変化があるとした上で、学校現場の現状や教育哲学など幅広い視点から講演。その中で、当該プロジェクトとも関連する多機関連携の取組みに言及しました。

子どもたちのシグナルを見過ごさないためには、学校、地域、家庭など、様々な場面で大人が子どもたちに目を配ることが大切ですが、例えば学校の場合、公務もあり、単独で対応に当たるのは難しいケースもあります。そこで、学校と協力して、子どもを立ち直らせたり、犯罪から守る取組みをしている警察の一組織である少年サポートセンターの事例を紹介。学校にとって、このような専門のスタッフと地域の方々の力添えは欠かせないものとの指摘がなされました。

連携の例として、実際に警察、教育委員会、児童相談所などの関係機関がワンフロアに位置して協議を行っている北九州市のモデルケースも紹介されました。必ずしもこの体制がいいとは言えないとしながらも、多機関が連携することの必要性を訴えていました。

続いて行われたパネルディスカッションでは、警察、学校関係の方も加わり、より実務に即した内容へと話は展開しました。

警察の方からは、まず、教育委員会と連携して、問題を抱えている子どもの情報共有を図っている平塚市の事例が紹介されました。素晴らしい体制が

確立していると思ったのですが、当初は学校への介入が難しかったこと、うまくいっている地域ばかりではないことが、後の質疑のときに判明。より細かな事例を学校と話し合えるようになるには、時間をかけて信頼関係を築いていくことが大事と語っていました。

次いで、地域の人たちや親との関係から見えてくる子どもたちの傾向について話題提供。アンケート調査の結果から、「地域の人には力になってくれる」と強く感じている子どもほど、万引きの経験が少なく、人に迷惑をかけてはいけないという認識や親子の絆が強いということや、非行の抑制には、親子の絆はもちろんのこと、美化活動のような人と協力して何かを成し遂げる活動も効果的との興味深いデータが示されました。

学校関係の方は、保護者の規範意識の低下やトラブルやクレームの対応に追われる教員、指導しにくい子どもたちなどの事例を交えて学校の現状を説明。そんな中で規範意識を育むためにはどうしているのか？教師が子どものお手本となる、花や緑に囲まれ清掃が行き届いた学校にする、きまりを守る理由を丁寧に説明、キレる子どもには冷静になるのを待って、なぜいけなかったのかを諭すなど、実際の取組みが紹介されました。

最後の質疑では、「規範意識の低い子どもは、家庭が壊れていて、地域が最後の砦となる場合もあるので、地域の再構築の事例を集めて、それを共有できるようにしてほしい」との意見があり、会場の参加者から拍手が沸いていました。実務者の共感の意の表れでしょうか。

私自身が思わず共感してしまったのが、コーディネーターの方が例として挙げた一幕。子どもが悪いことをしたときに親から「怒らないから、正直に言ってごらん」と言われ、正直に告白したら怒られた（殴られた）というもの。

この場面は、多くの方が経験したことがあるのではないのでしょうか。しかし、これは嘘や暴力の肯定を子どもに示していることになり、その結果、子どもは嘘をついたり、恨みの感情を持つようになるとのこと。そうならないために、大人が子どもに矛盾したメッセージを伝えていることを自覚することが重要だと述べていました。

子は親の鏡ではないですが、子どもの変化には大人の言動の影響が大きいことを改めて実感。「最近の子どもは・・・」と嘆くのではなく、子どもたちが変わるためには、社会が良い方向にシフトすることが必要で、そのためには、私たち大人一人ひとりの心がけこそが大事なのだと再認識しました。

(領域担当 S.F.)

---

### 3. 「犯罪からの子どもの安全」WEBサイト更新情報

---

#### 【更新情報】

#### ●国の取組み

犯罪被害者等施策推進会議（内閣府）

<http://www8.cao.go.jp/hanzai/suisin/kaigi/index.html>

犯罪統計資料（平成22年1～9月分）（警察庁）

<http://www.npa.go.jp/toukei/keiji35/hanzai.htm>

薬物の乱用防止対策に関する行政評価・監視－需要根絶に向けた対策を中心として－＜勧告に対する改善措置状況＞（総務省）  
[http://www.soumu.go.jp/menu\\_news/s-news/01hyoka02\\_01000004.html](http://www.soumu.go.jp/menu_news/s-news/01hyoka02_01000004.html)

プロバイダ責任制限法検証WG（第1回会合）（総務省）  
[http://www.soumu.go.jp/menu\\_sosiki/kenkyu/provider01siryo.html](http://www.soumu.go.jp/menu_sosiki/kenkyu/provider01siryo.html)

法制審議会児童虐待防止関連親権制度部会第7回会議議事録（法務省）  
<http://www.moj.go.jp/shingi1/shingi04900042.html>

平成22年版犯罪白書のあらまし（法務省）  
[http://www.moj.go.jp/housouken/houso\\_2010\\_index.html](http://www.moj.go.jp/housouken/houso_2010_index.html)

第5回死因究明に資する死亡時画像診断の活用に関する検討会議事録  
（厚生労働省）  
<http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/2r9852000000wc5m.html>

その他の取組みについてはこちら  
→ <http://www.anzen-kodomo.jp/ministries/>

## ●イベント情報

平成22年12月3日 子どもの防犯研究・つくば報告会  
プログラム [http://www.anzen-kodomo.jp/program/research/pdf/y\\_harada10.pdf](http://www.anzen-kodomo.jp/program/research/pdf/y_harada10.pdf)  
申込書 [http://www.anzen-kodomo.jp/program/research/pdf/y\\_harada11.pdf](http://www.anzen-kodomo.jp/program/research/pdf/y_harada11.pdf)

平成22年12月4日 内閣府 特別企画 「不登校、ひきこもりへの支援を語る」  
[http://www8.cao.go.jp/youth/suisin/hutoko\\_hikikomori.html](http://www8.cao.go.jp/youth/suisin/hutoko_hikikomori.html)

平成22年12月9日 山中プロジェクトシンポジウム  
「子どもたちを虐待からまもる」  
<https://www.dh.aist.go.jp/Workshop/2010HF/>

平成22年12月11日 日本弁護士連合会シンポジウム  
「触法障がい者の司法福祉的アプローチ」  
[http://www.nichibenren.or.jp/ja/event/101211\\_2.html](http://www.nichibenren.or.jp/ja/event/101211_2.html)

平成22年12月12日 家庭内暴力をのりこえる「家族臨床理論」の構築にむけて  
－虐待を解決する取組みの最前線からの問題提起－  
[http://www.ritsumei-human.com/news/news\\_10/temp/20101212.pdf](http://www.ritsumei-human.com/news/news_10/temp/20101212.pdf)

平成22年12月23日 第4回地域安全マップ指導員全国大会  
[http://www.anzen-kodomo.jp/pdf/ad\\_08.pdf](http://www.anzen-kodomo.jp/pdf/ad_08.pdf)

その他のイベントについてはこちら  
→ <http://www.anzen-kodomo.jp/event/>



## 【見どころピックアップ！】

今回の見どころはトピックスから、プロジェクト関係者インタビューです。

今回インタビューさせていただいたのは、「犯罪の被害・加害防止のための対人関係能力育成プログラム開発」プロジェクトと協働している

福岡市立若宮小学校の先生方です。

こちらの小学校では、当該プロジェクトで開発している、子どもたちが犯罪の被害者にも加害者にもならないための対人関係能力と自尊感情を育成する予防的な教育システムを実際の授業で導入しています。

このシステムを導入することによって、子どもたちはもちろんのこと、先生方にも変化が見られたとのこと。どのような変化があったのか・・・実際の授業の様子とともに紹介されていますので、ぜひご覧ください。

プロジェクト関与者インタビュー

体験を共にすることで、家庭と学校のつながりが生まれる

→ [http://www.anzen-kodomo.jp/pdf/ad\\_09.pdf](http://www.anzen-kodomo.jp/pdf/ad_09.pdf)

---

#### 4. 「犯罪からの子どもの安全」WEBサイトアクセスランキング

---

##### 【アクセスランキング】

- ☆ 1位 プロジェクト関与者インタビュー  
携帯電話、インターネット問題の怖さを子どもを見守る親の立場から伝えたい  
[http://anzen-kodomo.jp/pdf/ad\\_04.pdf](http://anzen-kodomo.jp/pdf/ad_04.pdf)
- 2位 マネジメントグループの紹介  
新谷珠恵領域アドバイザー（平成19年度）  
[http://anzen-kodomo.jp/profile/group/h19/t\\_sintani.html](http://anzen-kodomo.jp/profile/group/h19/t_sintani.html)
- 3位 第2回「犯罪からの子どもの安全」シンポジウム  
「犯罪から子どもを守る司法面接法の開発と訓練」プロジェクト  
ポスター  
<http://anzen-kodomo.jp/pdf/col09.pdf>

---

#### 5. 今月のキーワード

---

「14%」

13歳未満の子どもへの暴力的な性犯罪を犯して刑務所に収容されている者（以下、再犯防止措置対象者）が、出所後に再び性犯罪を犯し、再検挙された確率です。

平成17年6月より「子ども対象・暴力的性犯罪の出所者情報」制度の運用が開始され、警察は、再犯防止措置対象者について法務省から出所情報の提供を受け、出所後の再犯防止を図る取組みをしています。

運用開始から今年5月末までに法務省から情報提供を受けた出所者数は、740人で、うち105人が性的犯罪で再検挙、さらにこのうち49人は子ども対象・暴力的性犯罪により再検挙されました。また、上記出所者のうち200人の所在が確認できていないということです。

警察ではこれまで再犯防止措置対象者について、更生や社会復帰を妨げないよう接触を控えてきましたが、今後は本人の同意を前提とした面接を

実施するなど、検討を進めているそうです。

警察庁：「子ども対象・暴力的性犯罪の出所者」の再犯等に関する分析  
<http://www.npa.go.jp/safetylife/seianki/saihanboushi20101104.pdf>

\*\*\*\*\*

「犯罪からの子どもの安全メールマガジン」

▼メールマガジンに関する各種変更、配信登録・解除はこちら

<http://www.jst.go.jp/melmaga.html>

▼ご意見・ご感想、お問い合わせはこちら

[c-info@anzen-kodomo.jp](mailto:c-info@anzen-kodomo.jp)

■発行日 2010年11月30日

■発行元

(独) 科学技術振興機構 社会技術研究開発センター

「犯罪からの子どもの安全」研究開発領域

領域WEBサイト <http://www.anzen-kodomo.jp/>

社会技術研究開発センターWEBサイト <http://www.ristex.jp/>

\*\*\*\*\*